

# 北海道浮魚ニュース

平成 26 (2014) 年度 19 号

2014 年 11 月 17 日

道総研 函館水産試験場

ホームページ : <http://www.fishexp.hro.or.jp/cont/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

## ◎ 11 月道南太平洋スルメイカ調査結果

浦河沖のスルメイカ分布密度は昨年を下回ったが、過去の 11 月調査の全調査点との比較では高い値であった。外套長のモードは 25cm。

函館水試調査船金星丸で実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・ 調査期間 : 2014 年 11 月 11 日 ~ 11 月 12 日
- ・ 調査海域 : 道南太平洋、津軽海峡

昨年 (2013 年 10 月 28 日 ~ 11 月 1 日) 及び過去 5 年のデータと比較しました。

### 1. 水温 (図 1、2)

漁獲調査点 4 地点のうち荒天により調査を実施できなかった下北半島東沖 St. 8 を除く 3 点では、表層水温はいずれも昨年の値を 0.6 ~ 2.3 °C 下回りました。水深 50m 層の水温は、函館沖 St. 16 で昨年の値を 1.4 °C 上回り、木直沖 St. 1 で 2.9 °C、浦河沖 St. 15 で 2.7 °C 下回りました。調査海域全体の水深 50m 層の水温は全体的に昨年より低く、胆振から日高海域の沿岸部と津軽海峡内を除き 13 ~ 14 °C の範囲にあり、地点間の水温差が小さい傾向がみられました。

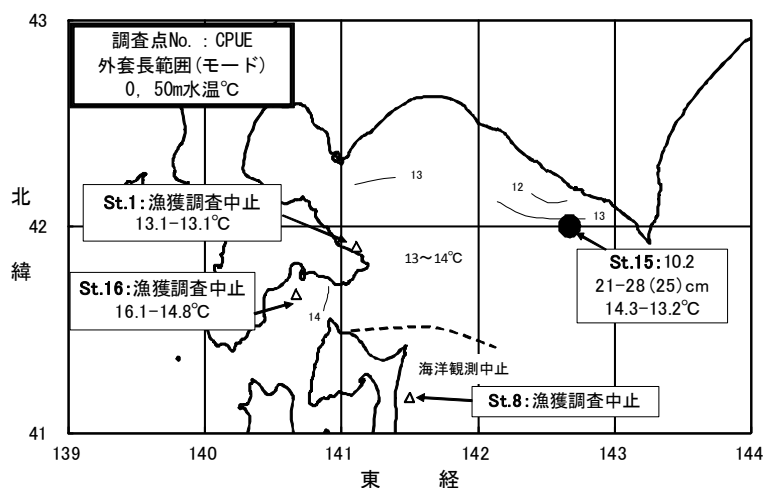


図 1 2014 年の漁獲調査結果と水温 (11 月 11 日 ~ 11 月 12 日)

●は漁獲調査点を示し面積は CPUE に比例。△は漁獲調査中止。等温線は 50m 水深の水温分布。

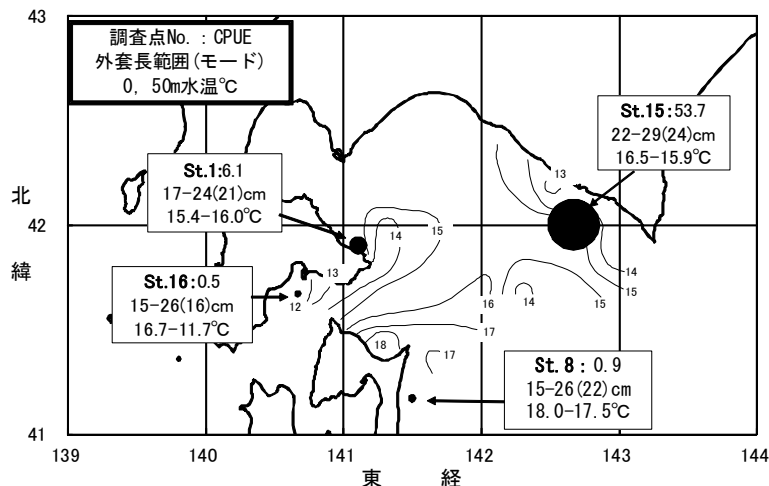


図 2 2013 年の漁獲調査結果と水温 (10 月 28 日 ~ 11 月 1 日)

●は漁獲調査点を示し面積は CPUE に比例。等温線は 50m 水深の水温分布

表 1 2009 年以降の各調査地点の CPUE と海域全体の魚体サイズ。

	2009 (H21) 11/9-11/11	2010 (H22) 11/11-11/12	2011 (H23) 11/7-11/11	2012 (H24) 11/5-11/9	2013 (H25) 10/28-11/1	2014 (H26) 11/11-11/12
St. 1(木直沖) CPUE	1.2	15.0	1.4	3.0	6.1	-
St. 8(下北半島東沖) CPUE	-	-	1.1	0.2	0.9	-
St. 15(浦河沖) CPUE	8.1	-	0.04	-	53.7	10.2
St. 16(函館沖) CPUE	-	-	2.4	0.9	0.5	-
平均CPUE (尾/台・時間)	4.6	15.0	1.2	1.4	15.3	10.2
外套長の範囲 (cm)	16-30	17-30	12-29	4-25	15-29	21-28
各地点の外套長モード (cm)	24	24, 26	24-26	19, 22	16-24	25

## 2. 分布密度 (図 1、2、表 1)

漁獲調査を行った浦河沖 St. 15 の CPUE は 10.2 で、昨年と同じ地点の値 (53.7) 及び全調査地点の平均 (15.3) を下回りましたが、1 調査地点の CPUE としては、調査が現在の形となった 2009 年以降の全調査地点の中で 3 番目に高い値でした。

## 3. スルメイカの大きさ (図 1～3、表 1)

漁獲されたスルメイカの外套長は 21～28cm (昨年同一地点 22～29cm、海域全体 15～29cm) の範囲にありました。外套長のモード (最も多く漁獲されたイカのサイズ) は 25cm (昨年同一地点 24cm、海域全体 24cm) でした。

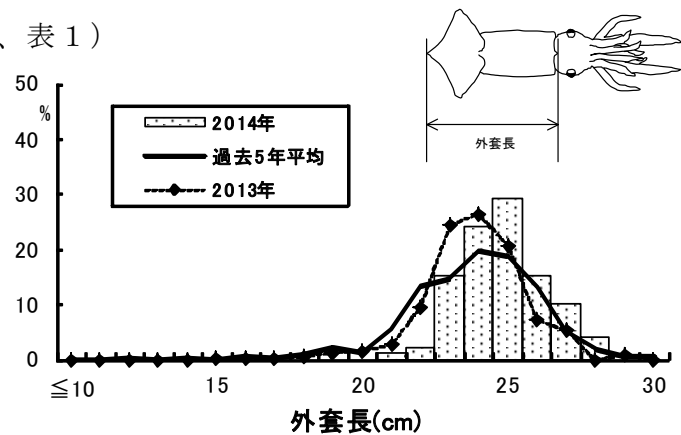


図 3 調査海域全体のスルメイカ外套長組成

## 4. アカイカ

漁獲調査を行った浦河沖 St.15 でアカイカの漁獲がありました。漁獲尾数は 4 尾、CPUE は 0.2 (昨年同一地点 57 尾、CPUE : 5.3) で、漁獲された個体の外套長の範囲は 29～36cm にあり、平均は 32.2cm でした。

(函館水産試験場調査研究部 TEL : 0138-83-2893、FAX : 0138-83-2849)

※函館水試は 6 月より函館市国際水産・海洋総合研究センター (函館市弁天町 20-5) 内に移転しました